

【優秀賞】

私の理想の四島

札幌市立前田中学校

2年 伊藤 愛未

私が北方領土という四島の存在を知ったのは、小学一年生の頃です。父が単身赴任で根室市に住んでいたため、家族で納沙布岬に行く機会があり、そこで直接「北方領土」を見ました。母から、北方領土は日本の領土だと聞かされましたが、その頃の私は、あまり興味がなかったと思います。

しかし、社会の授業で北方領土を勉強するようになり、多くの難しい問題があることを知り、私自身、なにか解決できることはないか、なにか役に立てることはないかと考えるようになりました。

そして今、北方領土サポーターになり北方領土返還要求運動に参加し、街頭で北方領土問題について呼びかけをしたり署名活動をしたりしています。そこで、実際に活動してみると、関心をもって立ち止まる人は少なく、署名をしてくれる人はわずかでした。北方領土に対する関心が薄いことに気がつき、まずは知ってもらうことが大切だと思いました。

北方領土は日本の領土です。八十年前、日本人が住んでいた四島はロシアによって突然奪われ、根拠なき侵略が続いています。今、日本にいる元島民にとっては、子どもの頃に住んでいた大切な故郷です。八十年間、一日も忘れることなく早く日本に返還されてほしいと願っていると思います。一方で、八十年前から四島に住んでいるロシアの人がいるのも事実です。このロシアの人にとっても大切な故郷の島になっていると思います。

そこで、もちろん、北方領土は日本に返還されることが大事ですが、四島に日本の人々もロシアの人々も関係なく一緒に住めるようになれば良いと考えました。そのために、私達のような若い世代は元島民の思いを引き継ぎ、以前行なわれていたビザなし交流や現地のロシアの人との交流を積み重ねていく必要があると思います。そして、四島に住みたい気持ちを分かち合い、少しずつでも仲を深め、お互いの国の人たちが文化をもち合い尊重していける島が築かれることこそが私の願いです。

私も、北方領土の元島民と会い、お話をしたことがあります。もう一度、四島に住みたいと強く願っていると同時に、ロシアの人と仲良くしたいという気持ちがあることも知りました。

ここ数年はロシアがウクライナと戦争中のため、ビザなし交流は中止され、社会的な問題も多くありますが、このような時こそ、様々な人に北方領土問題について発信していきたいと思います。これからも、北方領土サポーターとして活動していく中で、元島民の本当の気持ちを知ってもらい、みんなに関心をもってもらいたい、それを街頭でたくさんの人達そして私の友達にも伝えたいと心から思いました。

最後に、私は、北方領土は日本の元島民もロシア人も悲しい思いをすることがなく、笑顔で一緒に住むことのできる故郷になれると想っています。